

インプラントと入れ歯の比較

インプラントが出てくる前は『入れ歯』が主流でした。

入れ歯はインプラントのように歯根を顎の骨に固定することはせず、粘膜の上に人工歯を乗せていることから、構造上、ぐらつきを生じやすく、どこかほかの歯に留め置いて固定する必要が出てきます。特に、合わない入れ歯を使っていると、咬み込みによる沈み込みなどが起こり、元の状態の20%未満の噛む能力もないということがわかっています。

入れ歯の形態では、粘膜と接する入れ歯の背面は、ヌルヌルと常に湿っているため、常に清潔を心がけないと細菌の繁殖場所になりやすく、ニオイの原因となってしまうがちです。また、入れ歯が大きくなるとお食事している時の、食べ物の感覚や味覚が遮断されるため、美味しくないとお感じになられることが多くあります。

和食の暖かい風味、お寿司の噛み染み出る美味しさ、冷たい炭酸水の発泡など、お食事の美味しさは、舌だけで味わうだけではないのです。また、脱着するたびに生じる歯をはさみつけるクラスプとよばれるバネの振動や、特に合わない入れ歯を使っていると、咬めない入れ歯で噛もうとすることに生じる粘膜への沈み込みの力が、入れ歯を留めている歯を揺さぶり、長い期間を経ると、揺さぶられた歯がグラグラしてくることも大きな問題でした。



噛む力が加わると・・・
入れ歯は歯肉に沈み込み
入れ歯を留めている歯を揺さぶります！

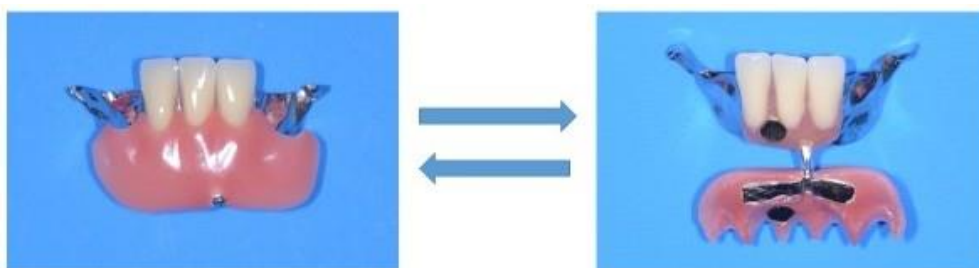
このようなグラグラは、残りの歯の喪失を助長するため、咬めない入れ歯を我慢しながら使っていると、だんだんと歯の数が減っていく傾向があり知らず知らずのうちに最後は総入

れ歯へと入れ歯が大きくなっていくのは、いままでの多くの事例が証明しています。



このような入れ歯のもつ構造上の欠点を補うために、精密な調節機構をもつ入れ歯や、特殊な材質で製作される入れ歯など、種々の高機能入れ歯が考案されています。

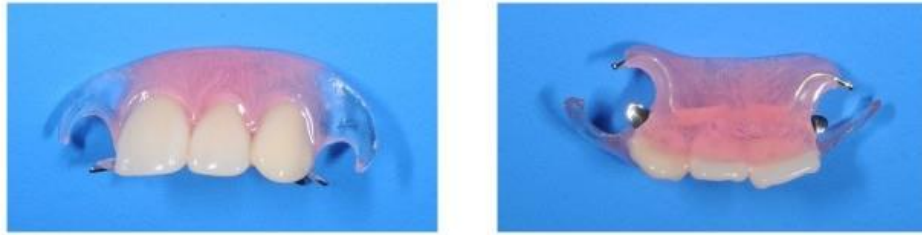
このような高機能入れ歯は、従来の入れ歯とはまったく異なり、咬み心地から耐久性をはじめ、審美性まで非常に優れている一方、製作できる技術力のある技工士は非常に少なく、また、製作技術上、技工料が高額になってしまうことや、**完成後も複雑な調整が何度も必要になる**ことなど、治療は専門的で時間と手間のかかる難しい作業を必要とします。



【入れ歯の脱着時の歯の揺さぶりを防止する審美性の高い高機能入れ歯】

入れ歯を外すときや、装着するときに、大きな力で引き抜き、押しはめするのではなく、歯肉部の扉を前面に開いてスムーズに出し入れさせます。歯肉粘膜部や歯間部の細かな凹凸にまでピッタリ密着する精密仕上げになっており残存歯に負担をかけない安定性のある咬み心地でお食事が楽しめます。

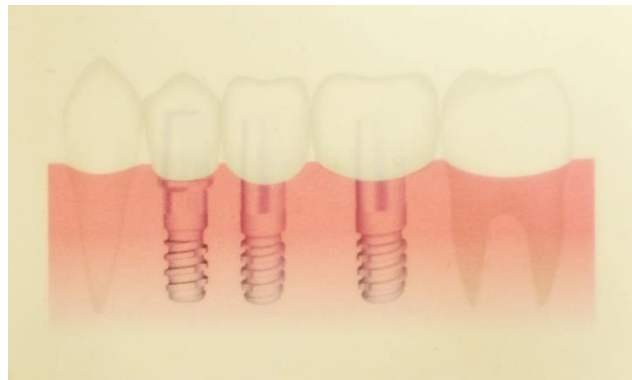
経年的に歯が少なくなっていく一般的な入れ歯や、製作できる技術者が少なく技工料が高額な高機能入れ歯に比較すると、むしろ**インプラント治療の方が、構造が簡単なため治療もシンプル。コスト的にも有利**です。



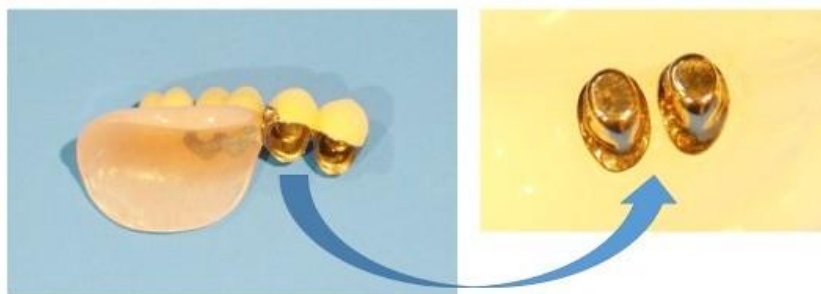
【審美性に優れた清潔な高機能入れ歯】

素材は柔らかなビニール製で清潔、カビやカンジダを寄せ付けません。
見えない舌側は、金属でしっかりホールドすると同時に
金属の台（レスト）で咬むときの沈み込みも防止します。

また、インプラントでは、歯根の数が増強されるため、より大きな力がかかった場合にも耐久性を示します。入れ歯よりもインプラントの方が衛生的で清潔なため、日々のケアも楽にすみ、また、ご旅行などでも入れ歯のお手入れのためにお時間が余計にかかる必要もなくなります。



また、一度製作した後も、顎が痩せてくるに従って、何度も作り直しや、調整をしなければならず、高齢になるほど、また、骨がやせてくるほど、粘膜や咀嚼の動きにも適応したピッタリの入れ歯の再製作は難しくなるのが実情です。



【ボタン仕掛けで固定する審美性の高い高機能入れ歯】

精密にボタンをはめ込むように、しっかり固定されます。
審美性にも非常に優れています。

そのため、東京審美会では「地震がきたら、まず入れ歯！」と、必ず入れ歯を持って避難するように患者さまにはお伝えしているほどです。特にご高齢の患者さまの場合には、高機能入れ歯であっても新しく製作してから、使いこなせるようになるまでが一苦勞で、使い慣れた入れ歯の状態にまでもっていきることができないまま、咀嚼がうまくいかず、そのまま流動的な食事になってしまうことがあるからです。



【入れ歯の底面全体に美味しさが伝わる高機能入れ歯】
金属部のメッシュ構造は、食べ物の暖かさ・冷たさ、お吸い物などの味、炭酸などの泡まで通り抜け、口蓋粘膜いっぱいに感じることができます。本当の美味しさ、暖かさ・冷たさを直接に口腔粘膜全域で感じられます。

お食事を楽しむなら入れ歯よりもインプラント

口腔衛生や、安全上の概念から入れ歯を取り上げられてしまうことがあります。そのために、しばらくすると顎が小さくなり入れ歯が合わない、入れ歯が使えないという状況になってしまい、そのまま流動的な食事に変えられてしまう場合もあります。

■ お食事の楽しみ(歯がない場合)



その点、インプラントであれば自分の歯と同じく、離れることも、なくすことはありませんから、大切に使っていただければ、いつでも清潔な食事を楽しむことができます。

■ お食事の楽しみ(歯がある場合)



健やかな健康は、豊かな食生活、楽しい食生活からもたらされることは言うまでもありません。東京審美会は、老人ホームに入る前の正しいインプラント治療をお薦めしています。

📖 インプラント豆知識

インプラントに炎症を起こしたりした場合など、普通の歯を違って抜くことが出来ないのでは？と、心配されている方がいらっしゃるようです。

インプラントには、万が一、炎症などが起こったら、インプラント周囲全体の骨がゆるみ、痛みもなく簡単に抜くことができるタイプと、炎症が起こっても、骨にしっかりくっついたまま抜くことができないタイプがあります。

東京審美会では、奥歯には、痛みもなくすぐに抜くことができるタイプのインプラントをお薦めし、特にご年配の方には少し短めのインプラント(ショート・インプラント)をお薦めしています。

万が一のことまで配慮したインプラント治療がどうか…
東京審美会は先々まで安心をお届けしています。

東京審美会のインプラント・サクセスストーリー

東京審美会の患者さまのお母さまで、遠方から通っていただきました患者さまです。
合わない入れ歯に悩まされていらっしゃいました。

ご自宅から1時間かけて通院されていた他院では、高価な入れ歯を勧められ、作成したものの舌を動かすだけで入れ歯が不安定に動くため、まったく噛むことができなかったそうです。ご自宅から1時間もかけて通院されていたにもかかわらず、忙しそうに動き回るスタッフの中、診察時間は短く、何度調整してもらっても噛めるようにはならず、通院するのも疲れてしまったとのことでした。



〈他院で作製され噛めるようにならなかった入れ歯〉

入れ歯を精査すると、**辺縁封鎖による吸着ができないだけでなく、すぐに転覆してしまう噛み合わせで歯が並べられている**ことがわかりました。また、顎骨の吸収が進んでいるため、舌を動かすと**入れ歯は跳ね上がってしまう**状況でした。

そこで、東京審美会では、精度の高い噛み合わせ、適合のよい入れ歯を製作し、大きな噛む力、咀嚼による回転力が加わっても安定していただけるようにインプラントで固定することにしました。



〈製作途中で患者さまに試適するためにワックスで作られた入れ歯〉

インプラントは、顎骨の状況に応じて、骨が厚く埋入が適している部位を選んで位置決めをします。



下顎骨の舌側には、危険な舌下動脈の分枝が存在しており、埋入位置は、安全を第一に考え骨の厚みのある個所を選びました。入れ歯には、4本のインプラントに留め置くしかけをつくり、入れ歯をしっかりと顎に固定することができました。



〈精度の高い噛み合わせ、辺縁を吸着させる床を有し、
さらにインプラントで固定するしかけを有する高機能入れ歯〉

以前は、舌を動かすたびに入れ歯が浮き上がり、食事が難しかったのですが、現在では、顎に入れ歯が一体となって動いてくれ、**食事もおしゃべりもお酒も楽しんでいただいております**。もちろん、通常の入れ歯とまったく同じように入れ歯は、自由につけたり外したりすることができます。

「入れ歯が治らければお正月が越せない！と先生が治療方法をあれこれと考えてくださったおかげで、今では、しっかりとした入れ歯で安心していられます。本当にありがとうございました」(患者さまのお言葉)

このように…

全部の歯をインプラントにしなくても、噛み合わせの入れ歯が沈みこまないように、また、咀嚼により不安定にならないように固定することもでき、簡単な治療により豊かな生活をお楽しみいただくことができます。

不安定な入れ歯でお悩みの方も、どうぞ東京審美会でご相談ください。